



NISSAY
ASSET MANAGEMENT

ニッセイ・パワーテクノロジー株式ファンド (3ヵ月決算・予想分配金提示型) 愛称：パワテック

追加型投信／内外／株式

3ヵ月
決算

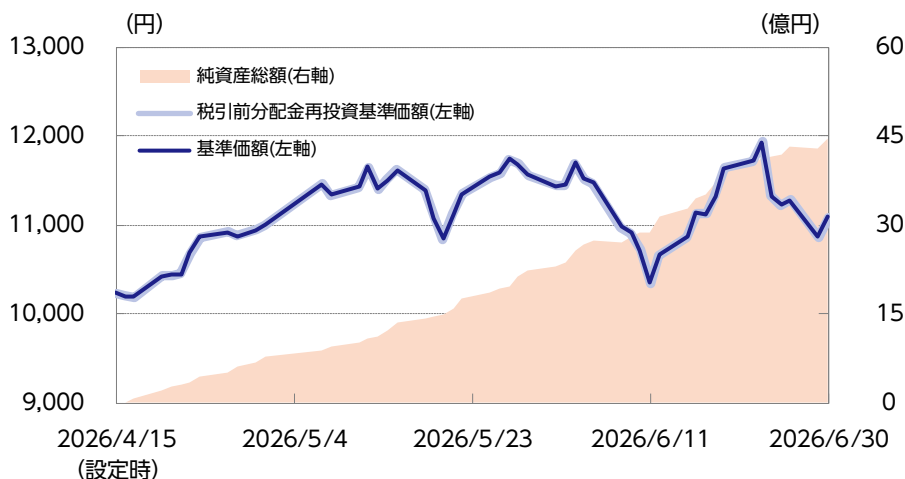
予想
分配金
提示型



マンスリーレポート
2026年6月末現在

運用実績

基準価額・純資産の推移



基準価額および純資産総額

基準価額	11,087円
前月末比	- 468円
純資産総額	44億円

分配の推移 (1万口当り、税引前)

第1期	2026年07月	—
第2期	2026年10月	—
第3期	2027年01月	—
第4期	2027年04月	—
第5期	2027年07月	—
第6期	2027年10月	—
第7期	2028年01月	—
直近1年間累計		—
設定来累計額		—

基準価額の騰落率 (税引前分配金再投資)

	1ヵ月	3ヵ月	6ヵ月	1年	3年	設定来
ファンド	-4.1%	—	—	—	—	10.9%

※上記は過去の実績であり、将来の運用成果等を保証するものではありません。

※基準価額は信託報酬控除後のものです。税引前分配金再投資基準価額は分配金 (税引前) を再投資したものと計算しております。なお、信託報酬率は「手続・手数料等」の「ファンドの費用」をご覧ください。

※運用状況によっては、分配金額が変わる場合、あるいは分配金が支払われない場合があります。分配金は信託財産から支払いますので、基準価額が下がる要因となります。収益分配金には普通分配金に対して所得税および地方税がかかります (個人受益者の場合)。

※ファンド騰落率は分配金 (税引前) を再投資したものと計算しており、実際の投資家利回りと異なります。

※基準価額の前月末比は、決算日到来月に分配金支払実績がある場合、分配金込みで算出しています。

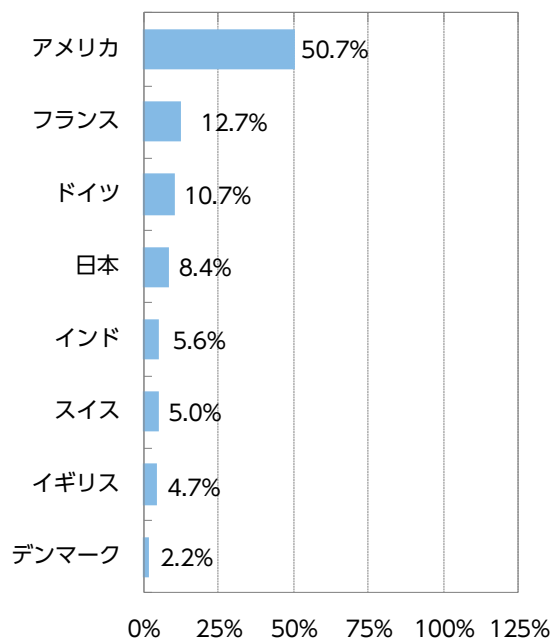
マザーファンドの状況

組入比率

株式等	94.2%
現金、その他	5.8%

※対純資産総額比

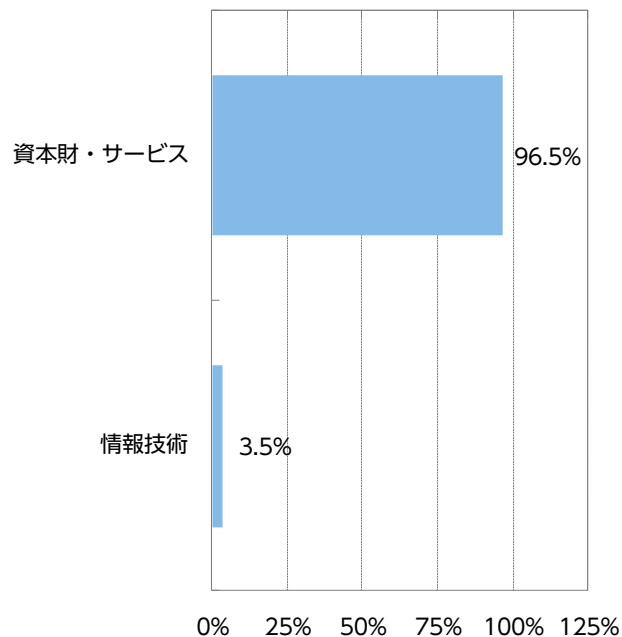
国・地域別組入比率



※対組入株式等評価額比

※国・地域はニッセイアセットマネジメントの分類によるものです。以下同じです。

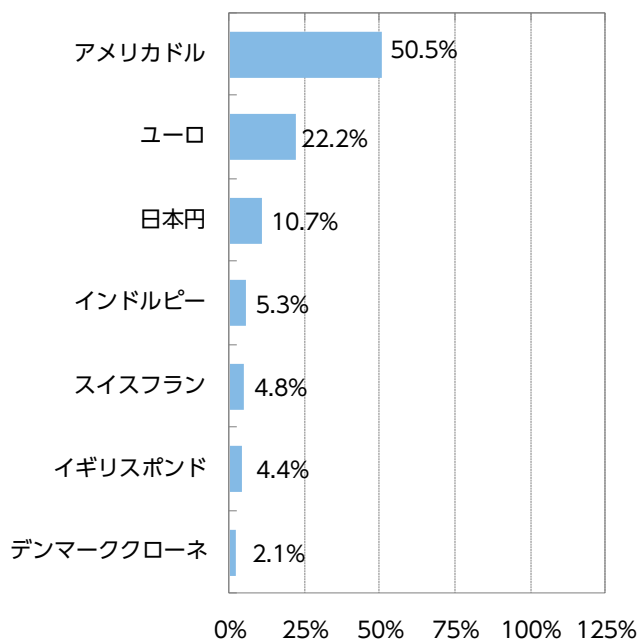
業種別組入比率



※対組入株式等評価額比

※業種はGICS分類（セクター）によるものです。なお、GICSに関する知的財産所有権はS&PおよびMSCI Inc.に帰属します。以下同じです。

通貨別組入比率



※対純資産総額比

組入上位10銘柄

（銘柄数：33）

	銘柄	国・地域 業種	比率	銘柄解説
1	GEベルノバ	アメリカ 資本財・サービス	8.9%	2024年に米ゼネラル・エレクトリック（GE）が発電部門を分割し、誕生。ガスタービン、蒸気タービン、原子炉、水力タービン、風力タービンなどの発電設備を提供する。
2	パーティブ・ホールディングス	アメリカ 資本財・サービス	7.0%	世界をリードするデジタルインフラの総合プロバイダー。2017年にエマソンネットワークパワーから社名変更。データセンター向けの電源装置やスイッチ、冷却装置を製造。
3	シーメンス・エナジー	ドイツ 資本財・サービス	6.5%	エネルギー技術のグローバルリーダー。2020年にシーメンスの発電、オイル&ガス事業、高圧送電事業および関連サービスを分社化し、誕生。従来の電力から再生可能エネルギー、グリッド（送配電系統）技術から貯蔵、複雑な産業プロセスの電化まで、エネルギー業界全体で事業を展開。
4	ブルーム・エナジー	アメリカ 資本財・サービス	5.9%	施設内に発電設備を併設するオンサイト発電向けの独自の固体酸化物燃料電池技術を基盤に、環境負荷の低い分散型発電システムを提供する電力機器メーカー。
5	イートン	アメリカ 資本財・サービス	4.5%	インテリジェント・パワー・マネジメント会社。顧客の電力管理を支援するというコミットメントを指針としている。同社のエネルギー効率の高い製品とサービスは、顧客の電力、水力、機械動力のパワーマネジメントにおける信頼性、効率性、安全性、持続可能性を高めることに貢献、また電力使用の効率性を高めるツールも提供。

※対組入株式等評価額比

	銘柄	国・地域 業種	比率	銘柄解説
6	シュナイダーエレクトリック	フランス	4.3%	グローバルな産業テクノロジーのリーダー。デジタル技術を生かしたエネルギーマネジメントに経営の軸足をおいており、電化、自動化、デジタル化における世界トップクラスの専門知識を、スマート化された製造業、レジリエント（強じん）なインフラ、未来仕様のデータセンター、インテリジェントなビル、直観的なホームオートメーションなどに提供。
		資本財・サービス		
7	三菱電機	日本	4.3%	家電製品から産業機器、社会インフラなど幅広い製品を提供。電力・熱の最適運用サービスを提供することで、エネルギー需要の高精度予測と予測値に基づいた電力・熱のシステム全体の最適運転を実現し、顧客の脱炭素化に貢献。
		資本財・サービス		
8	シーメンス	ドイツ	4.3%	エレクトロニクス、オートメーション、およびデジタル化の分野における世界有数のテクノロジー企業。最新のスマートグリッドや配電システムの設計・構築・運用・保守を行う。
		資本財・サービス		
9	エマソン・エレクトリック	アメリカ	4.0%	オートメーション技術のグローバルリーダー。電力や再生可能エネルギーにおける生産性、安全性、信頼性を向上させるソリューションを提供。クリーンエネルギーの製造・貯蔵・輸送・送電などのプロセス効率化を支援して脱炭素型への転換に貢献。
		資本財・サービス		
10	パウエル・インダストリーズ	アメリカ	3.7%	電力供給・制御システムをはじめとするプロセス管理システムソリューションを提供。
		資本財・サービス		

※対組入株式等評価額比

当月の市況動向

当月の世界株式市場は、イーロン・マスク氏が率いる米宇宙会社スペースXによる過去最大規模の新規株式公開（IPO）、人工知能（AI）・データセンター関連株への高値警戒感やAIモデル開発企業の資金調達への懸念、米国とイランの和平交渉進展による原油価格の下落、米国の利上げ見通しの高まりなど多くの材料が錯綜し、値動きが荒くまちまちの動きとなりました。

上旬は、米スペースXによる過去最大規模のIPOを控えて上値が重く、米半導体大手の業績見通しの下振れから半導体関連株が売られたことや、堅調な5月の米雇用統計を受けて米利上げ観測が高まったことなどが重荷となり、下落する展開となりました。

中旬は、米スペースXによる過去最大規模のIPOが堅調な値動きで波乱なく通過して投資家心理を支えたことや、米国・イランが停戦に関する覚書に署名したことにより原油価格が下落し、インフレ懸念が後退したことを受け、反発する動きとなりました。

下旬は、米大手半導体メモリーメーカーが巨額の利益を計上したことが明らかになった一方、メモリー価格の急騰が周辺分野にもたらす影響への懸念や、AIモデル開発企業の人材獲得競争激化、さらには資金調達延期の報道などを背景に、AI・データセンター関連株への高値警戒感と資金調達への懸念が高まりました。こうした要因が相場の重荷となり、特に韓国株式市場では大幅な乱高下が見られました。一方で、ヘルスケアや生活必需品など出遅れていたディフェンシブセクターが物色されるセクターローテーション（景気の局面ごとに有望な業種別銘柄群に投資対象を切り替えていく戦略）の動きがみられ、値動きの荒い相場のまま月末を迎えました。

為替は、米国の利上げ見通しの高まりや、政府・日銀による為替介入への警戒感の低下とみられる動きを受けて、米ドルに対して円安となりました。

ファンドの状況

当月の基準価額は下落しました。

当月は、米国の利上げ見通しの高まりに加えて、AI・データセンター関連株への高値警戒感や生成AIモデルを開発する企業の資金調達懸念などが、当ファンドのパフォーマンスにマイナスに寄与しました。個別銘柄では、蓄電システムの製造・販売を手がける日本の企業が最もマイナスに寄与しました。当月に海外市場向けに初めて大型蓄電システムを受注したことや、今年度の売上見通しの上方修正を発表したものの、大株主による売却を制限するロックアップ期間が終了したことで、既存株主の売却などによる需給悪化が嫌気され、株価が下落しました。

今後の見通しと運用方針

当月、米調査会社のガートナーが公表したデータセンターの電力消費予測によると、データセンターの電力消費量は大きく拡大しており、世界のデータセンターの総電力消費量は、2025年の447TWh（テラワット時）から2026年は26%増となる565TWh、2027年はさらに24%増の702TWhに達する見通しです。また、2030年までに世界中のデータセンターによる総電力消費量は1,200TWhを超えると試算されており、これは日本全体の年間消費電力量を超える規模と見積もられています。これをけん引するのが、学習や推論に特化したAI最適化サーバーの普及で、同サーバーの消費電力は2026年に総電力消費量の31%を占め、2027年には従来型サーバーを上回る見込みです。加えて、発熱量の大きいハードウェアを冷やすための冷却システムの消費電力量も、2026年には23%増の195TWhへ急増する見込みです。今回の予測が示しているように、電力効率をいかに技術と運用の工夫で高め、必要な電力を安定的に供給するかが、当面のデータセンター成長の持続性を左右するカギとなる見込みです。

ポートフォリオのリスクコントロールとしては、トランプ米政権による関税政策の影響を念頭に置いた上で、米国、欧州、アジアの各地域のバランスを重視したいと考えています。今後は、多くの企業とのミーティングを重ねながら、サプライチェーン（供給網）への影響度を確認した上で、慎重なポートフォリオ管理を継続してまいります。

当ファンドは、電力の需要と供給のギャップを迅速に調整できる企業群を中心に、テクノロジーの進化を見極め、中長期的な視点で投資する方針です。急拡大するAI需要をはじめ、電気自動車の普及など、多くの製品・サービスにとって「電気は必須のエネルギー」となっており、その需要見通しは右肩上がりとなっています。銘柄選別としては、電力供給力を急速に向上させることが難しい環境下で、電力消費を柔軟にコントロールする技術等に大きな進化余地があると考えており、新たな技術の収益性を確認しながら、投資可否を判断します。

投資においては、「良い技術、革新的な技術だから投資する」のではなく、「収益を上げられる技術であること」を確認しながら、投資銘柄を選別することが重要と考えています。これらの電力コントロール技術は、特定の企業あるいは国が占有する技術ではなく、世界中に散らばっていますので、先入観を持たず、特定の企業への投資にこだわらず、広い視野と機動的な調査を通じて、投資候補を拡大させる方針です。投資先企業群と直接ミーティングを行い、定点観測を繰り返しながら、企業の業績・技術をモニターしていきます。

この電力の需給ギャップを埋める技術そのものは、短期間で普及するものではなく、中長期的に普及していくものと考えられます。したがって、ポートフォリオを構築する際も、短期的な視点で株価水準を判断し売買することはせず、中長期的な業績改善シナリオを持ち、着実な収益の拡大が中長期的に期待できるかどうか、という視点を重視したいと考えています。

今後も長期的な成長と企業価値向上が期待できる銘柄への選別投資を進めてまいります。引き続き、当ファンドをご愛顧賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

運用体制

原則作成基準日時点で入手しうる情報に基づきます。

2026年4月30日時点

運用責任者	三国 公靖※
経験年数	37年
運用担当部	株式運用部

※当ファンドの運用は三国公靖氏を運用責任者とするチームにて運営しております。

ファンドの特色

- ①「電力」に関連する優れた技術やビジネスモデルを有する企業の株式を主な投資対象とします。
- ②徹底した調査・分析を通じて、株価の上昇が期待される銘柄を厳選します。
- ③外貨建資産については、原則として対円での為替ヘッジ※は行いません。
※為替ヘッジとは、為替変動による資産価値の変動を回避する取引のことをいいます。
- ④年4回決算を行い、決算日の前営業日の基準価額に応じた分配をめざします。
※1・4・7・10月の各14日(休業日の場合は翌営業日)に決算を行います。
- ※収益分配方針に基づき、決算日の前営業日の基準価額(1万口当り。支払い済みの分配金累計額は加算しません)に応じて、以下の金額の分配を行うことをめざします。

決算日の前営業日の基準価額	分配金額(1万口当り、税引前)
11,000円未満	基準価額の水準等を勘案して決定
11,000円以上12,000円未満	600円
12,000円以上13,000円未満	900円
13,000円以上14,000円未満	1,200円
14,000円以上	1,500円

- ・決算日の前営業日から決算日まで基準価額が急激に変動した場合等には、上記とは異なる分配金額となる場合や分配金が支払われない場合があります。
- ・基準価額の値上がりにより、該当する分配金テーブルが分配金の支払い準備のために用意していた資金を超える場合等には、テーブル通りの分配ができないことがあります。
- ・基準価額に応じて、分配金額は変動します。基準価額があらかじめ決められた水準に一度でも到達すれば、その水準に応じた分配を継続するというものではありません。
- ・分配を行うことにより基準価額は下落します。そのため、基準価額に影響を与え、次期決算以降の分配金額は変動する場合があります。また、あらかじめ一定の分配金額を保証するものではありません。

※分配金額は、委託会社が基準価額水準、市況動向、残存信託期間等を勘案して決定します。

※原則として、決算日の前営業日の基準価額（1万口当り。支払い済みの分配金累計額は加算しません）に応じた金額の分配をめざします。ただし、分配対象額が少額の場合、あるいは決算日の前営業日から決算日まで基準価額が急激に変動した場合等には、分配を行わないこと等があります。また、委託会社の判断により、分配を行わないことがあります。

※将来の分配金の支払いおよびその金額について、保証するものではありません。

分配金に関する留意事項

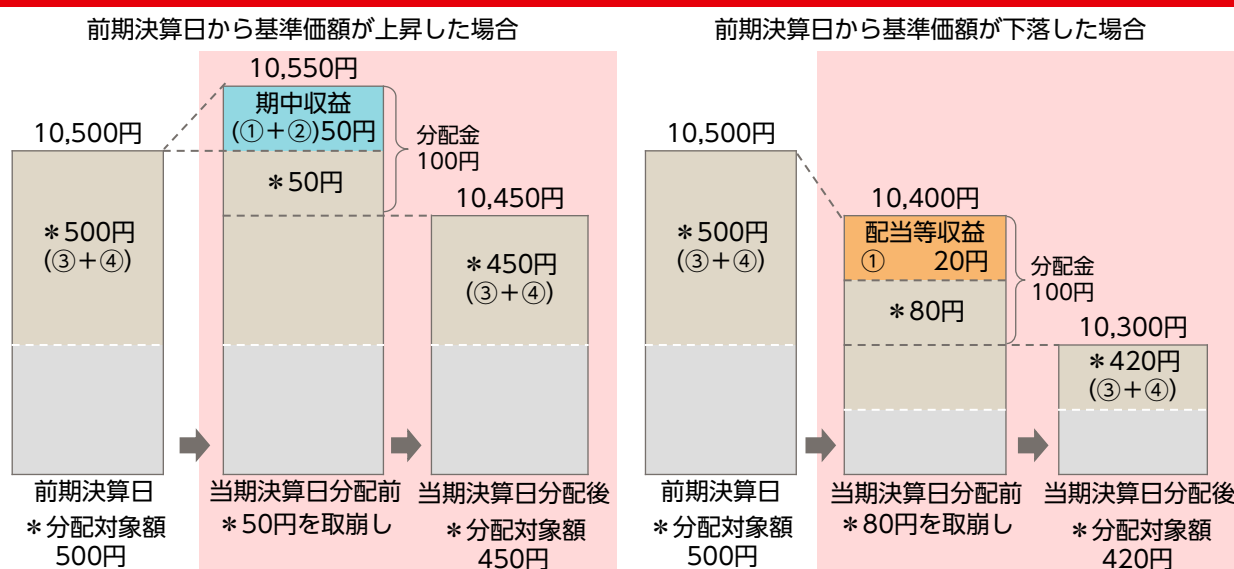
- 分配金は、預貯金の利息とは異なり、ファンドの信託財産から支払われますので、分配金が支払われると、その金額相当分、基準価額は下がります。

ファンドで分配金が支払われるイメージ



- 分配金は、計算期間中に発生した収益（経費控除後の配当等収益および評価益を含む売買益）を超えて支払われる場合があります。その場合、当期決算日の基準価額は前期決算日と比べて下落することになります。また、分配金の水準は、必ずしも計算期間におけるファンドの収益率を示すものではありません。

計算期間中に発生した収益を超えて支払われる場合



※分配対象額は、①経費控除後の配当等収益および②経費控除後の評価益を含む売買益ならびに③分配準備積立金および④収益調整金です。分配金は、収益分配方針に基づき、分配対象額から支払われます。

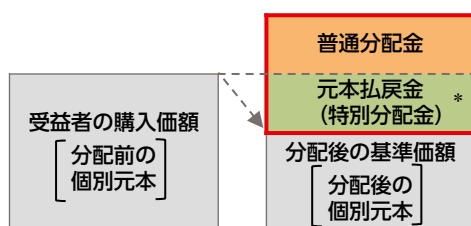
分配準備積立金：期中収益（①および②）のうち、当期の分配金として支払われず信託財産に留保された金額をいい、次期以降の分配金の支払いにあてることができます。

収益調整金：追加型株式投資信託において追加設定が行われることによって、既存の受益者の分配対象額が減らないようにするために設けられた勘定です。

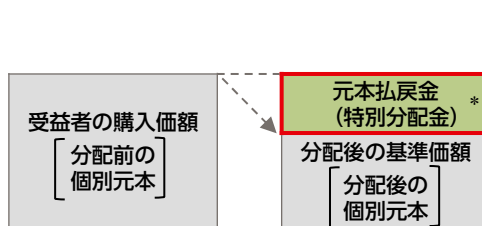
！上記はイメージ図であり、実際の分配金額や基準価額を示唆するものではありませんのでご注意ください。

- 受益者のファンドの購入価額によっては、支払われる分配金の一部または全部が実質的に元本の一部払戻しに相当する場合があります。ファンド購入後の運用状況により、分配金額より基準価額の値上がり小さかった場合も同様です。

分配金の一部が元本の一部払戻しに相当する場合



分配金の全部が元本の一部払戻しに相当する場合



* 実質的に元本の一部払戻しに相当する元本払戻金（特別分配金）が支払われると、その金額だけ個別元本が減少します。また、元本払戻金（特別分配金）部分は非課税扱いとなります。

普通分配金：個別元本（受益者のファンドの購入価額）を上回る部分からの分配金です。

元本払戻金（特別分配金）：個別元本を下回る部分からの分配金です。分配後の受益者の個別元本は、元本払戻金（特別分配金）の額だけ減少します。

※普通分配金に対する課税については、投資信託説明書（交付目論見書）をご覧ください。

投資リスク

※ご購入に際しては、投資信託説明書（交付目論見書）の内容を十分にお読みください。

基準価額の変動要因

- ファンド（マザーファンドを含みます）は、値動きのある有価証券等（外貨建資産には為替変動リスクもあります）に投資しますので、基準価額は変動します。したがって、投資元本を割込むことがあります。
- ファンドは、預貯金とは異なり、投資元本および利回りの保証はありません。運用成果（損益）はすべて投資者の皆様のものとなりますので、ファンドのリスクを十分にご認識ください。

主な変動要因

株式投資リスク	株式は国内および国際的な景気、経済、社会情勢の変化等の影響を受け、また業績悪化（倒産に至る場合も含む）等により、価格が下落することがあります。
為替変動リスク	原則として対円での為替ヘッジを行わないため、外貨建資産については、為替変動の影響を直接的に受けます。一般に円高局面ではファンドの資産価値が減少します。
カントリーリスク	外国の資産に投資するため、各国の政治・経済情勢、外国為替規制、資本規制等による影響を受け、ファンドの資産価値が減少する可能性があります。特に、新興国の経済状況は先進国経済と比較して一般的に脆弱である可能性があり、ファンドの資産価値が大きく減少したり、運用方針にそった運用が困難になる可能性があります。
流動性リスク	市場規模が小さいまたは取引量が少ない場合、市場実勢から予期される時期または価格で取引が行えず、損失を被る可能性があります。

❗ 基準価額の変動要因は、上記に限定されるものではありません。

その他の留意点

- ファンドは、特定のテーマに絞った株式への投資を行います。したがって、株式市場全体の値動きとファンドの基準価額の値動きが大きく異なる場合、また、より幅広いテーマで株式に分散投資するファンドに比べ基準価額の変動が大きくなる場合があります。
- 新興国の株式投資に関しては、以下の事項にご留意ください。
 金融商品取引所の取引の停止（個別銘柄の売買停止等を含みます）、外国為替取引の停止、その他やむを得ない事情（投資対象国・地域における非常事態の発生※による市場の閉鎖、流動性の著しい低下あるいは資金の受渡しに関する障害等）があるときは、ファンドの購入・換金の申込みの受付けを中止すること、および既に受付けた購入・換金の申込みの受付けを取消することがあります。
 ※金融危機、デフォルト、重大な政策変更や資産凍結を含む規制の導入、クーデターや重大な政治体制の変更等。
- ファンドは、多量の換金の申込みが発生し換金代金を短期間で手当てする必要性が生じた場合や組入資産の主たる取引市場において市場環境が急変した場合等には、一時的に組入資産の流動性が低下し、市場実勢から期待できる価格で取引ができないリスク、取引量が限定されるリスク等が顕在します。
 これらにより、基準価額にマイナスの影響を及ぼす可能性、換金の申込みの受付けを中止する、また既に受付けた換金の申込みの受付けを取消する可能性、換金代金のお支払いが遅延する可能性などがあります。

手続・手数料等

※基準価額は便宜上1万口当りに換算した価額で表示されます。

お申込みメモ

購入時	購入単位	販売会社が定める単位とします。
	購入価額	購入申込受付日の翌営業日の基準価額とします。
換金時	換金価額	換金申込受付日の翌営業日の基準価額とします。
	換金代金	換金申込受付日から起算して、原則として6営業日目からお支払いします。
申込について	申込締切時間	原則として毎営業日の午後3時30分までに販売会社の手続きが完了したものを当日受付分とします。ただし、申込締切時間は販売会社によって異なる場合がありますので、詳しくは販売会社にご確認ください。
	申込不可日	ニューヨーク証券取引所、ニューヨークの銀行のいずれかの休業日と同日の場合は、購入・換金の申込みの受付を行いません。 海外休日カレンダー： https://www.nam.co.jp/fundinfo/calendar/holiday.html
決算・分配	決算日	1・4・7・10月の各14日（該当日が休業日の場合は翌営業日）
	収益分配	年4回の毎決算日に、収益分配方針に基づき収益分配を行います。
その他	信託期間	2046年7月13日まで（設定日：2026年4月15日）
	繰上償還	委託会社はあらかじめ受益者に書面により通知する等の手続きを経て、ファンドを繰上償還させることがあります。
	課税関係	課税上は株式投資信託として取扱われます。 配当控除、益金不算入制度の適用はありません。 公募株式投資信託は税法上、一定の要件を満たした場合にNISA（少額投資非課税制度）の対象となり、当ファンドは、NISAの「成長投資枠（特定非課税管理勘定）」の対象となります。ただし、販売会社により取扱いが異なる場合があります。 詳しくは、販売会社にお問合せください。

❗ ご購入に際しては、投資信託説明書（交付目論見書）の内容を十分にお読みください。

ファンドの費用

投資者が直接的に負担する費用		
購入時	購入時手数料	購入申込受付日の翌営業日の基準価額に 3.3%（税抜3.0%） を上限として販売会社が独自に定める率をかけた額とします。 ※料率は変更となる場合があります。詳しくは販売会社にお問合せください。
換金時	信託財産留保額	ありません。
投資者が信託財産で間接的に負担する費用		
毎日	運用管理費用（信託報酬）	ファンドの純資産総額に 年率1.7875%（税抜1.625%） をかけた額とし、ファンドからご負担いただきます。
	監査費用	ファンドの純資産総額に年率0.011%（税抜0.01%）をかけた額を上限とし、ファンドからご負担いただきます。
随時	その他の費用・手数料	組入価証券の売買委託手数料、信託事務の諸費用および借入金の利息等はファンドからご負担いただきます。これらの費用は運用状況等により変動するため、事前に料率・上限額等を記載することはできません。

-  当該費用の合計額、その上限額および計算方法は、運用状況および受益者の保有期間等により異なるため、事前に記載することはできません。
-  詳しくは、投資信託説明書（交付目論見書）をご覧ください。

税金

分配時の普通分配金、換金（解約）時および償還時の差益（譲渡益）に対して、所得税および地方税がかかります。詳しくは、投資信託説明書（交付目論見書）をご覧ください。

- 少額投資非課税制度「愛称：NISA（ニーサ）」は少額上場株式等に関する非課税制度であり、NISAをご利用の場合、一定の額を上限として、毎年、一定額の範囲で新たに購入した公募株式投資信託などから生じる配当所得および譲渡所得が無期限で非課税となります。ご利用になれるのは、販売会社で非課税口座を開設し、税法上の要件を満たしたファンドを購入するなど、一定の条件に該当する方となります。詳しくは、販売会社にお問合せください。
- 外国税額控除の適用となった場合には、分配時の税金が投資信託説明書（交付目論見書）の記載と異なる場合があります。
- 法人の場合は上記とは異なります。
- 税金の取扱いの詳細につきましては、税務専門家等にご確認されることをお勧めします。

委託会社【ファンドの運用の指図を行います】	ファンドに関するお問合せ先
ニッセイアセットマネジメント株式会社 金融商品取引業者登録番号 関東財務局長（金商）第369号 加入協会：一般社団法人資産運用業協会	ニッセイアセットマネジメント株式会社 コールセンター 0120-762-506 9:00～17:00（土日祝日・年末年始を除く） ホームページ https://www.nam.co.jp/
受託会社【ファンドの財産の保管および管理を行います】	
三菱UFJ信託銀行株式会社	

ご留意いただきたい事項

- ①投資信託はリスクを含む商品であり、運用実績は市場環境等により変動し、運用成果（損益）はすべて投資者の皆様のもとなります。投資元本および利回りが保証された商品ではありません。
- ②当資料はニッセイアセットマネジメントが作成したものです。ご購入に際しては、販売会社よりお渡しする投資信託説明書（交付目論見書）、契約締結前交付書面等（目論見書補完書面を含む）の内容を十分にお読みになり、ご自身でご判断ください。
- ③投資信託は、預金保険機構および保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。また、登録金融機関で購入された場合、投資者保護基金による支払いの対象にはなりません。
- ④投資信託のお取引に関しては、クーリング・オフ（金融商品取引法第37条の6の規定）の適用はありません。
- ⑤当資料のいかなる内容も将来の運用成果等を示唆あるいは保証するものではありません。また、資金動向、市況動向等によっては方針通りの運用ができない場合があります。
- ⑥当資料は、信頼できると考えられる情報に基づいて作成しておりますが、情報の正確性、完全性を保証するものではありません。
- ⑦当資料のグラフ・数値等はあくまでも過去の実績であり、将来の投資収益を示唆あるいは保証するものではありません。また税金・手数料等を考慮しておりませんので、実質的な投資成果を示すものではありません。
- ⑧当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。
- ⑨当資料の内容は原則作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。

取扱販売会社一覧

※販売会社は今後変更となる場合があります。また、販売会社によっては、新規のお申込みを停止している場合もあります。

詳しくは、販売会社または委託会社の照会先までお問合せください。

取 扱 販 売 会 社 名	登録金融機関		登 録 番 号	日本証券業協会	一般社団法人 資産運用業協会	一般社団法人 金融先物 取引業協会	一般社団法人 第二種金融 商品取引業協会
	金融商品 取引業者	登録金融 機関					
株式会社しん証券さかもと	○		北陸財務局長(金商)第5号	○			
中銀証券株式会社	○		中国財務局長(金商)第6号	○			○
株式会社三十三銀行		○	東海財務局長(登金)第16号	○			
株式会社中国銀行		○	中国財務局長(登金)第2号	○		○	